



PROJECT MANAGEMENT FORUM 2009 KYOTO

プロジェクトマネジメント・フォーラム 2009 京都

伝統に根ざした国際競争力の再生

基調講演 1

クオリア時代

株式会社堀場製作所 最高顧問

堀場 雅夫



基調講演 2

分権時代における標準化と 行政経営イノベーション

京都府副知事

猿渡 知之



2009年5月23日(土)

9:40~16:50 (懇親会 17:30~19:30)

会場

京都勤労者総合福祉センター 京都テルサ

主催

特定非営利活動法人 日本プロジェクトマネジメント協会

後援

経済産業省近畿経済産業局
財団法人エンジニアリング振興協会 (ENAA)
特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会
特定非営利活動法人 ITコーディネータ京都
社団法人京都府情報産業協会

伝統に根ざした国際競争力の再生

長く続いた日本の好景気もついに変局点を迎え、米国発の金融不安が世界中に大きな影響を与えています。いまやあらゆる面で日本は世界と密接につながっており、グローバル化が私達の日常に浸透しています。また、地球規模の資源や自然環境変化の課題に対して、日本だけでなく世界のために何ができるかを考えなければいけない時代が来ようとしています。それらを実現するためのひとつの手法・考え方がプロジェクトマネジメントです。かつて米国は日本の成長に学び、プロジェクトマネジメントを導入して現在まで飛躍的な成長を遂げてきました。しかし、その成長も今岐路に立たされています。本フォーラムでは、日本がこの複雑であいまいな状況に立ち向かい、再び国際社会でリーダーシップを発揮して、希望のもてる未来を切り拓くことをめざして、伝統を育む地、京都でプロジェクトマネジメントの可能性を考えます。「伝統に根ざした国際競争力の再生」と題して、プログラムを準備しております。参加される皆さまにおかれましては、基調講演そして各セッションを通じて、多くの「気づき」を得ていただき、明日からの行動に活かしていただきたいと思っております。

基調講演

1 クオリア時代

基調講演

10:00~

堀場 雅夫

株式会社堀場製作所 最高顧問

クオリア時代とは何か。人間ひとりひとりの深く高度な質感(クオリア)に価値を置く新しい社会とはどういう社会なのか。これから人々が求めるものは。人間の知と感性を生かすためにこれからの日本の産業はなにを提供できるのか。また企業家の目指す道は。



【講師略歴】1924年生まれ。堀場製作所創業者、現同社最高顧問。1946年京都帝国大学理学部物理学専攻卒、61年医学博士号取得、在学中起業し、学生ベンチャーの草分け的存在。53年同社代表取締役社長、78年代表取締役会長、95年取締役会長、2005年から現職。(財)京都高度技術研究所最高顧問、京都ナノテク事業創成クラスター本部本部長、京都市ベンチャー企業目利き委員会委員長など要職に就き起業家育成に注力。1982年藍綬褒章受賞、2006年「ピッツコン・ヘリテージ・アワード」を米国人以外で初めて受賞など数多の受賞歴。

2 分権時代における標準化と行政経営イノベーション

基調講演

11:00~

猿渡 知之

京都府副知事

経済のグローバル化や少子高齢社会の到来の中で、住民の生活を守る最後の砦として、地方自治体の使命は益々重くなっている。一方、財政環境は厳しさを加え、また、住民参画の開かれた行政が求められている。そこで、多様な分権時代を支える行政経営の在り方と、逆説的だが、より重要となる標準化の意義について考える。



【講師略歴】1985年東京大学法学部卒業後、自治省(現総務省)に入省。その後自治省固定資産税課長補佐、青森県企画部理事、総務省自治政策課理事官、同課情報政策企画官、京都府総務部長などを経て、2006年5月より現職。

プロジェクトマネジメント・フォーラム2009京都 プログラム

9:10~ 9:40~	開場・受付開始				
10:00~ 11:00~	開会宣言 主催者挨拶 来賓挨拶	山崎正敏 田中弘 山本陽一	日本プロジェクトマネジメント協会 日本プロジェクトマネジメント協会 近畿経済産業局製造産業課	関西代表・理事 代表・理事長 課長	
	基調講演1 基調講演2	堀場雅夫 猿渡知之	株式会社堀場製作所 京都府副知事	最高顧問	
	P2M	組織・ヒューマンリソース	IT	エンジ・建設・製造	ファシリテーション
13:10~14:10	PM-1 過剰管理の処方箋 岸良 裕司	HR-1 プロジェクトの「見える化」 石原 信男	IT-1 協働体系としてのITプロジェクト 加藤 敦	EG-1 薄型デジタルテレビに見る製造業の国際競争力と技術マネジメント 山口 南海夫	FS-1 現場力を高める見える化手法プロジェクトファシリテーション 平鍋 健児
14:30~15:30	PM-2 P2M実践事例 水野 弘之	HR-2 「プロジェクトX」に学ぶ 小藪 康	IT-2 オフショア開発の成功と失敗の分かれ道 戴 春莉	EG-2 P2Mで拓く新たな製造業の可能性 北村 保成	FS-2 定員30名 ワークショップ プロジェクトファシリテーション入門 田村 浩資
15:50~16:50	PM-3 CFP 「オープン・イノベーション」戦略実践MOT 松本 毅	HR-3 CFP NASAコロンビア事故とトヨタ品質に学ぶ第三者評価の事例 山形 史郎	IT-3 ソフトウェア開発プロジェクトの混乱予測技術 水野 修	EG-3 アメリカ現地法人運営を通じたP2M実践事例 坂井 剛太郎	
17:30~19:30	懇親会 レストラン朱雀(テルサ東館1F)				

■各セッションの定員は、FS-2のワークショップを除いて最大150名です。定員になり次第締め切ります。

P2M

PM-1 過剰管理の処方箋 みんなが自然にやる気！になる一全体最適のマルチプロジェクト改革

●岸良 裕司 ゴールドラットコンサルティング ディレクター

プロジェクトは、今までやったことのないことに挑戦する本来はワクワクする楽しいもののはず。なのに、始めてからしばらくすると現場は、ほどなく、理不尽な要求に対応する苦勞、予期せぬ問題に対処する苦勞、納期を守る苦勞の三重苦にまみれてしまいがちです。そんな中で、プロジェクトメンバーの、やる気は次第に失われ、現場からやりがい、はりあいがなくなっていくことも多いのが現状です。これらの課題を、現実のマルチプロジェクト環境で、自然に無理なく、現場にやる気、やりがい、はりあいをもち、さらに目覚ましい業績を、シンプルに全体最適で出していくかその実践的ノウハウを紹介するとともに産業界の豊富な事例を紹介します。

【講師略歴】1959年生まれ。ゴールドラット・コンサルティング・ディレクター。日本TOC推進協議会理事。あらゆる産業界における成果の数々は国際的に高い評価を得て、活動の舞台を世界中に広げている。そのセミナーは、楽しく、わかりやすく、実践的との定評がある。著書に『過剰管理の処方箋』（かんき出版）などベストセラー多数。

PM-2 P2M実践事例 システム開発プロジェクトでの活用法

●水野 弘之 中央情報システム株式会社 広島支店 次長

システム構築プロジェクトを事例に挙げ、成熟化した産業構造の中でどのようにP2Mを活用してより効果的なプロジェクト運営を生み出していくべきか？成熟した産業では、各々の組織体の中で既に独自のプロジェクトマネジメント手法を構築している。その状況の中で、P2Mをどのように現状のマネジメント手法に取り入れていくべきか説明をする。具体的な事例を挙げることで、より効果的なPM力につながるヒントになればと考える。

【講師略歴】大型汎用機・ダウンサイジングなどのPG・SEを経て、外資系コンサルティング会社において大規模システム開発プロジェクトのPMを担当。2005年中央情報システム株式会社に入社。現在、広島支店の運営管理、開発プロジェクト管理に従事。PMS。広島P2M研究会所属。

PM-3 「オープン・イノベーション」戦略実践MOT 「オープン・イノベーション」時代のプロジェクトマネジメント

●松本 毅 大阪ガス株式会社 技術戦略部オープン・イノベーション担当部長/MOT担当部長 **CFP**

イノベーションのスピードが求められる今日の競争環境において、先進的なグローバル企業では、必要なもの自社では保有しない技術について、外部に広く積極的に求めるオープン・イノベーション型の技術戦略に転換しています。『自社が強みを有するコア技術を強化し、内外の異種技術と結合・融合させ、付加価値を増大させる「オープン・イノベーション」型の技術戦略の展開が必要不可欠になってきています。「オープン・イノベーション」時代においては、複数の技術・企業を束ねる必要があり、ますます、プロジェクトマネジメントが重要かつ難しくなります。先進企業事例をもとに「オープン・イノベーション」戦略実践MOTを説明します。

【講師略歴】1981年大阪ガス株式会社入社。凍結粉砕機開発・事業化に従事。83年より総合研究所にてガスセンサー開発特別プロジェクトGM。開発センサーは多くの受賞や国際的な採用成果。全社PM組織強化を推進し、MOT教育事業化の成功を経て、現在MOT・オープンイノベーション担当部長。大阪工大客員教授等多くの公的機関の委員として活動中。

HR-1 プロジェクトの「見える化」 「見える化」でわかる！プロジェクトマネジメントの進め方

●石原 信男 石原事務所 代表

プロジェクトは組織を横断して仕事が発展する。従い、機能型組織のもとでプロジェクトを進めるには組織、仕事、人の間の壁を先ず取り除いて組織横断的に仕事の流れのような仕組みづくりが肝要である。プロジェクトチーム編成もその一つであるが、しかし形を整えただけでチームとしての機能を発揮するとは限らない。メンバ全員がプロジェクトの仕組みを知り組織横断的な仕事の流れに適合した意識を持つことが欠かせない。それには先ずプロジェクトが見えなくてはならない。プロジェクトが見えなければマネジメントができない。本講演はエンジ、IT、製造の分野を問わず共通して存在する「見えない」という課題の「見える化」にふれるものである。

【講師略歴】 某製鉄会社の機械部門入社。社内・国内・海外のプロジェクト・エンジニアリング業務に従事(1960年～1997年)。1997年石原事務所。PM研修、講演。著作・投稿を通じてPMの普及活動。著書「プロジェクトビジネスマネジメント」PMAJ'03、「見える化でわかる！プロジェクトマネジメントの進め方」日刊工業新聞社'08。

HR-2 「プロジェクトX」に学ぶ 難局への対応、その時リーダー・チームはどう動いたか

●小藪 康 パナソニック株式会社 人材開発カンパニー 主事

NHKの人気番組「プロジェクトX」で紹介されたプロジェクトに焦点をあて取り組んだ研究会の成果報告である。プロジェクトが遭遇する困難な状況「難局」の克服のため、リーダーやチームのメンバーがとった行動を探求した。プロジェクトに訪れる難局とはなにで、それを克服するための活動と、その背景としてプロジェクトにおける「場」の存在や、リーダーの持つコンピテンシー(行動特性や人間力)、メンバーの役割分担がどのような影響を与えたのかなどに注目し分析を行った。様々なプロジェクトにおける「難局」克服の一助となることを期待してまとめ上げた。

【講師略歴】 パナソニック株式会社人材開発カンパニー勤務 経歴：システムエンジニアとして、様々な業界におけるITシステム開発のプロジェクトマネジメントを経験。現在、社内の人材育成部門において、プロジェクトマネジメント関連の研修講師を担当 保有資格：PMS、PMP、情報処理技術者資格アプリケーションエンジニア

HR-3 NASAコロンビア事故とトヨタ品質に学ぶ第三者評価の事例 JAXAは高信頼性システム構築への組織活動を始めた

●山形 史郎 日本レコードマネジメント株式会社 人事企画室 シニアコンサルタント

CFP

2008年夏、国際宇宙ステーション(ISS)の一部となった日本実験棟「きぼう」の運用が本格的に始まり、2009年秋には、ISSへ物資を輸送する「宇宙ステーション補給機」が、H-II Bロケットで日本から打上げられる。JAXAとNASAが共同で行う総合システムの力が試される。2003年、スペースシャトル・コロンビア事故及びH-II Aロケット失敗の後、失敗を反省して第三者評価を取り入れ、関係者の熱意と工夫で改善を進め、成功を続けている。JAXAは、トヨタの継続的品質改善手法も取り入れ、失敗が少ない高信頼性システム構築への組織活動を目指して歩み始めた。本講演は、第三者評価に参加した自らの経験を基に、高信頼性システムのあるべき姿から、事故の教訓、JAXAの第三者評価の事例を、P2Mの視点で紹介する。

【講師略歴】 1968年東北大学精密工学科卒、82年スタンフォード大学大学院航空宇宙学科卒。日本航空機製造で旅客機「YS-11」開発。JAXAで静止衛星「きく2号」放送衛星「ゆり3号」、「おりひめ・ひこぼし」プロマネ、日本実験棟「きぼう」チーフエンジニア、信頼性推進評価室等。現在日本レコードマネジメント株式会社。宇宙開発のリスクマネジメント関連記事多数。

IT

IT-1 協働体系としてのITプロジェクト 受注ソフトウェア開発に関する一考察

●加藤 敦 同志社女子大学 現代社会学部 教授

経営学者バーナードは、2人以上の人々の協働的活動の体系(cooperative system)として組織をとらえた。一般にITプロジェクトは企業内外の既存組織の枠を越える複雑な組織(協働体系)となっている。こうしたプロジェクトを成功に導くには、アーキテクチャ、契約、人的資源といった協働体系を形作る要素を戦略的にデザインし、主体的にプロジェクトマネジメントを進める必要がある。本報告では受注ソフトウェア開発(オフショア開発)を念頭に、厳しい国際競争に晒される日本企業がコスト・品質・納期などの目標を達成するため、協働体系をいかにデザインすべきかを考察してゆきたい。

【講師略歴】 1980年東京大学経済学部卒業。2000年青山学院大学大学院国際政治経済学専攻修了。博士(国際経営学)。システム監査技術者。新日本製鉄株式会社勤務等を経て2000年4月より現職。著書：『リアルオプションとITビジネス』(2007年、エコノミスト社)。

IT-2 オフショア開発の成功と失敗の分かれ道 オフショアの豊富な経験を持つ第一線の実務経験者が語る「オフショア開発の成功と失敗の分岐点」

●戴 春莉 松村株式会社 システム開発事業部 ITコーディネーター 京都 理事

オフショア開発の実践がIT開発現場に浸透してかなり経過するが、異文化コミュニケーションギャップによる品質・納期などトラブルも多い。2007年PMフォーラムKOBEBEをきっかけとして、オフショアのあるべき姿を模索すべく、成功体験を持つ第一線の実務経験者が集まった。関西P2M研究会オフショア分科会として発足し、見えにくいオフショア開発の生の現場の可視化を試みた。第一線の実務経験者から苦労した課題やその対応策などを可能な限り「生のデータ」を提示してもらい、集約し体系化した。メンバーは日本人だけでなく、中国人・インド人もおり、オフショア先の視点も考慮した。これからオフショア開発に携わる人に有益な情報となれば幸甚である。

【講師略歴】 中国南京大学・情報処理科卒業。1989年京都工芸繊維大学大学院工業デザイン専攻卒業。通産省海外技術研究員として松下電工デザイン部を経て1991年松村株式会社入社、システム開発事業部の責任者。独自に考案したデザイン手法により、江蘇省とのオフショア開発でブリッジSE兼プロマネとして多数のシステム構築を推進。

IT-3 ソフトウェア開発プロジェクトの混乱予測技術

●水野 修 大阪大学大学院 情報科学研究科 助教

ソフトウェアの開発期間が短縮される一方、ソフトウェアに求められる品質はますます高くなりつつある。品質を保ったまま、こうした要求に応えるためにはソフトウェア開発プロジェクトが抱える問題点(リスク要因)を早期に見つけて、それらを回避する技術の開発が望まれている。講演者は、ソフトウェア開発プロジェクトの早期に行うリスク調査アンケートにより、そのプロジェクトが最終的に混乱状態に陥るかどうかを判定する手法を提案してきた。本講演ではこうした手法について、企業との共同研究の実例を交えながら紹介する。

【講師略歴】 平成10年大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了。平成13年博士(工学)取得。平成11年大阪大学大学院基礎工学研究科助手。平成19年大阪大学大学院情報科学研究科助教。現在に至る。ソフトウェアプロジェクトの混乱や不具合混入モジュールの予測など、データマイニングの手法を取り入れた実証的ソフトウェア工学の研究を実施。

EG-1 薄型デジタルテレビに見る製造業の国際競争力と技術マネジメント

●山口 南海夫 株式会社日本ビクター 顧問

ここ数年の間にテレビはブラウン管アナログテレビから薄型デジタルテレビに大きく姿を変えた。テレビは長い歴史をかけて今日の姿にまで発展してきたがそれが今、薄型ディスプレイデバイスとデジタル技術が組み合わされた全く新しい世界に突入したのである。その変化は全世界同時に進行し、製造業の在り方に大きな変化をもたらした。日本の製造業の国際競争力のために大いなる教訓を残したと同時に、技術マネジメントの在り方にも大きな変化をもたらした。同様なことがデジタル技術の浸透とデバイスのモジュール化に伴って他の分野でも起こる可能性がある。本講演ではこれらを解説するとともに我が国の製造業の新しい取り組みについて考察する。

【講師略歴】 1969年松下電器産業株式会社入社以来26年間カラーテレビの開発設計を中心に映像機器開発を担当。その後システムLSI開発センター所長として半導体開発、松下情報システム株式会社社長としてソフト開発を担当。2001年日本ビクターに移籍。専務取締役兼技術開発本部長として技術経営を担当。2008年顧問退任。

EG-2 P2Mで拓く新たな製造業の可能性 蓄積した組織能力を顧客・市場の潜在ニーズに結びつける

●北村 保成 パナソニックラーニングシステムズ株式会社 顧問

厳しい経済環境にある日本の産業を引き続き製造業が牽引していくことが求められる。そのためには、これまで世界をリードしてきた製造業の底力(組織能力)を改めて正しく認識し、グローバルな視野と視点から、顧客・市場の潜在的なニーズと結びつけた新たな事業創造が必要である。このことにP2Mがいかなる貢献が可能か現在PMAJを中心に委員会活動で研究中であり、その成果を紹介することによって、新たな産業育成に向けた第一歩となることを祈念するものである。

【講師略歴】 1972年 松下電器産業株式会社入社。本社、ビデオ関連部門で人事を担当、山形工場工場長、事業企画部長、営業部長を歴任。1997年(株)松下情報システムテクノロジー初代社長、2001年システムソリューション部門の人材開発センター所長。2005年パナソニックラーニングシステムズ株式会社社長を経て2008年から現職。

EG-3 アメリカ現地法人運営を通じたP2M実践事例 プロジェクトとプログラムのコンカレントマネジメント

●坂井 剛太郎 株式会社竹中工務店 大阪本店 本店長席 副部長

国内外での新築・増築・改築・改修工事や技術指導等のプロジェクトに加えて、大組織での業務改革プロジェクト等の経験の後、3年にわたりアメリカ現地法人の経営に携わった。経営課題として課せられた「安定化」を実現するために、営業・生産・維持保全の各フェーズでの個別プロジェクトマネジメントと共に、意識・組織改革プロジェクトの統括マネジメントを、刻々と変化する市場環境の中でオンタイムに調整・実施してきた。帰任後、国内の(近畿圏)地域事業体の経営に関与する中で確立した、経営をプロジェクトとプログラムのコンカレントなマネジメントの複合体とした考え方について、海外駐在時の活動の実践事例に沿って説明する。

【講師略歴】 1982年に京都大学を卒業後、株式会社竹中工務店に入社。日本での工事施工管理、タイ、アメリカでのプロジェクト管理、本社生産統括部門、香港での技術指導・現地法人運営、中国現地法人立上支援等を担当し、2004年に現地法人代表としてアメリカへ再赴任。2008年帰任後、現在は大阪本店長直属スタッフとして特定課題を担当。

ファシリテーション

FS-1 現場力を高める見える化手法プロジェクトファシリテーション モチベーションアップのツールと場づくり

●平鍋 健児 株式会社チェンジビジョン 代表取締役

近年のソフトウェアの短納期化・高品質化に対する要求へ応えるには、工学的手法のみでは限界があります。ソフトウェアは、人が人のために作るものであり、チームが情報を共有しながら課題解決するためには、現場力が必要です。このセミナーでは、アジャイル開発とトヨタ生産方式からヒントを得た見える化手法を使って、現場のモチベーションを高め、活性化することで生産性を伸ばす「プロジェクトファシリテーション」を実践方法を交えてご紹介します。

【講師略歴】 1989年東京大学工学部卒業後、3次元CAD、リアルタイムシステム、UMLエディタJUDEなどの開発を経て、オブジェクト指向技術、アジャイル型開発の実践する「見える化」コンサルタント。アジャイルプロセス協議会副会長。著書「ソフトウェア開発に役立つマインドマップ」。翻訳「XPエクストリームプログラミング導入編」「リーンソフトウェア開発」「アジャイルプロジェクトマネジメント」など多数。

FS-2 プロジェクトファシリテーション入門 IT開発の現場から生まれた現場力を高める見える化手法

●田村 浩資 プロジェクトファシリテーション(PFP)関西スタッフ

ワークショップ

IT開発の現場では、問題の原因は、結局、人に起因することが多い。そこで、人にフォーカスし、メンバーのモチベーションアップやコミュニケーション促進手法の枠組み(フレームワーク)として、現場から生まれたのが今回テーマの「プロジェクトファシリテーション(以下PF)」である。PFでは、「プロジェクトを成功させること」「エンジニアとして、よりよい人生を過ごすために」を両立させることを目的にし、この目的にそって、「価値」・「原則」・「実践」を決めている。本テーマでは、PFの全体概要の説明と、現場で実際に行われているPFの実践手法を、誰でもできる簡単なワークを通して体験してもらい紹介する。

【講師略歴】 プロジェクトファシリテーションプロジェクト(PFP)関西スタッフ 大学卒業後、建設業界で4年半現場監督を経験後、IT業界へ。数社のSIベンダーで業務システム開発に従事し、開発プロジェクトにおけるコミュニケーションの大切さ、難しさを痛感。PFを通して、コミュニケーションスキルの向上に取り組んでいます。

当フォーラムは、各種ポイントの認定対象となります

CPU	発給ポイントは1時間当たり2ポイントです	10ポイント
PDU	PMP®向けPDU発行対象です	5ポイント
知識ポイント	ITコーディネータ資格者に付与されます	4時間40分(後援扱い)
PMP®資格認定試験受験用受講証明書		5時間

開催要項

日時	2009年5月23日(土) 9:40~16:50 (懇親会 17:30~19:30)
会場	京都勤労者総合福祉センター 京都テルサ http://www.kyoto-terrsa.or.jp/ 京都府京都市南区新町通九条下ル 京都府民総合交流プラザ内
アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ■ J R 京都駅(八条口西口)より南へ徒歩約10分 ■ 近鉄東寺駅より東へ徒歩約5分 ■ 地下鉄九条駅4番出口より西へ徒歩約5分 ■ 市バス九条車庫南へすぐ ■ 名神京都南インターより国道1号北行き市内方面へ九条通を東へ、九条新町交差点を南へ、進入路あり



参加申込要領

申込方法	ホームページよりお申込みを受付けております。 PMA Jホームページから『PMフォーラム2009京都』のご案内ページをご参照ください。 http://www.pmaj.or.jp/kansai/forum/2009/
------	---

申込締切	2009年5月13日(水)【早期割引申込み期限 2009年4月23日(木)】 申込み先着順に定員となり次第締切りとさせていただきますので、早めの申込みをお勧めいたします。
------	---

参加費用	フォーラム		懇親会
	4/23まで(早期割引)	4/24以降(通常申込)	通常申込のみ
PMA J個人正会員	6,000円	7,000円	4,000円
PMA J法人正会員の社員または職員 E N A A 賛助法人会員の社員または職員	8,000円	9,000円	
P M I 会員・I T C 協会会員			
一般参加者	9,000円	10,000円	
学生	3,000円		

(注)参加申込み時にPMA Jに入会申込みの場合は、会員扱いとなります。
会費及びフォーラム参加費の入金確認後、電子メールにて参加証をお送り致します。

支払方法	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>口座名 三菱東京UFJ銀行 本店 普通0989960 名義人 特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会 (トクヒ)ニホンプロジェクトマネジメントキョウカイ</p> </div> <p>お申込み受付後、電子メールにて参加費等を記載したお申込み受け付けデータをお送りいたします。 早期割引適用の方は4月30日(木)までに、早期割引適用以外の方は、5月13日(水)までに上記の口座にお振込みください。 また、お振込時には、参加者名及び電子メールに記載されていますお申込み番号を必ずご記入ください。 ※企業名でお振込の場合は、事前に参加者名及びお申込み番号を事務局までお知らせ下さい。 ※請求書払いをご希望の場合は、余裕をもって申込みをお願いいたします。 ※恐れ入りますが振込み手数料はご負担ください。 ※参加証は、参加費のご入金を確認させて頂いた後、電子メールにてお送りさせていただきます。 ※申込み後のキャンセル取扱いは、ホームページに記載しています。</p>
------	--

【フォーラムお問い合わせ窓口】

特定非営利活動法人 日本プロジェクトマネジメント協会

〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目4番6号 TEL.03-3539-3022 (代表) FAX.03-3539-1741
<http://www.pmaj.or.jp/> E-mail: admi-kyoto@pmaj.or.jp



■日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ / Project Management Association of Japan)

PMAJは、プロジェクトマネジメント資格認定センター (PMCC) と日本プロジェクトマネジメント・フォーラム (JPMF) が統合されて2005年11月に発足した協会です。P2M資格試験やPMシンポジウム、例会、PM研修、国際交流、機関誌の発行を通じて実践的PMの普及活動を行っています。現在、個人会員数は2,500名、法人会員数は120社です。